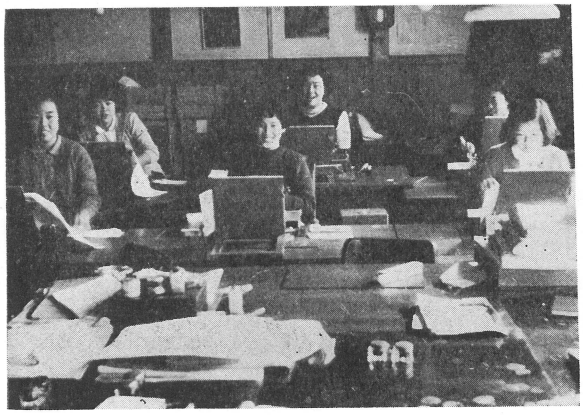
地方だより

東京管区気象台　調査課

調査課には調査係と統計係がある，当課を訪れる人は誰でも手動せん孔機から発するガチャガチャガチャという騒音に悩まされる．しかしこれも慣れてくると案外リズミカルで気にかゝらないようになるものである．このせん孔とせん孔検査業務は統計係の主要な定常業務で，中部日本所在の管内48気象官署と約530の気候観測所から，報告されてくる日表と旬表を1時間約10,000打の割合でカード化する仕事である．この日表と旬表はその后当課に保管されて種々の調査やサービスの資料として使われ，カードは気象庁統計課へ送られ，機械統計の後印刷物として諸方面へ配布されるのである．



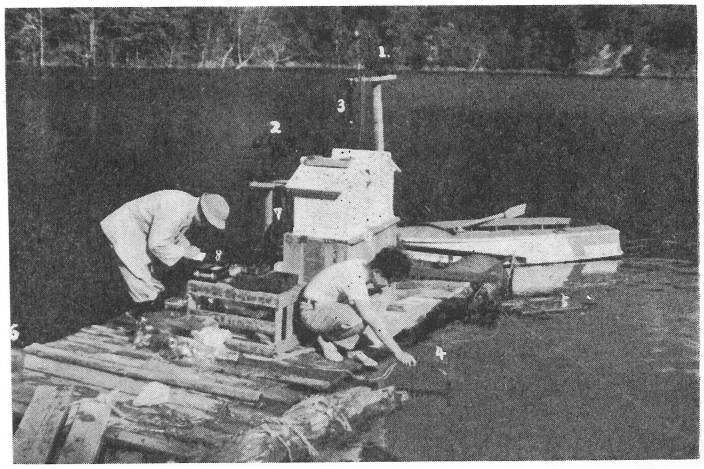
パンチ作業

調査係の事務分掌事項を規定でみると，気象・地象・陸水象・産業気象・災害等非常に間口の広い関連事象の調査と管内官署のそれらの指導に関することを主要な仕事とするように定められている．したがって我々はこれらに関係したいろいろな調査業務をやっているわけであるが，現在特に重点的に当課自体は勿論，管内官署と共に協力して推進しょうとしている問題は我々地方気象官署における気象技術をより客観化して行こうということである．このため，各担当地域内の諸現象の時間・空間分布について，ある事項は綜観気候学的に調査統計し，又ある現象は，スモール・スケールの立場から解析調査して普遍性ある予報則を引出し，これらを各県別に局地気象技術資料として集成し，その技術的足場を固めようとする調査業務である．しかし，問題は多く又複雑である．将来かなり長期に亘っての協力と努力を続けて行く必要をつう感しつゝ努力している次第である．

又この他当課自体としては数年来水文気象調査に相当の力を注いで来た．尾瀬沼地域・奥利根須田貝貯水池集水域等では積雪測量やこれをチエック資料として山岳地域の冬の降水量を気象学的に算定したり，又融雪に関する実験的観測調査，水文気象学的立場からの広域からの蒸発現象の実験的調査等を実施して所要の知識を得て来た．本年は北アルプス地域一梓川・高瀬川上流一で地域全般の水収支の実態を体系ある一環性のもとに把握しようと新しく水文気象的観測網を補充設置して調査を始めた．

当課は一寸見にはかなり暇のある職場のように思われ勝であるが，どうして，なかなか忙しいところである．

（清水重喜記）



群馬県水上町須田貝ダム（洞元湖）における湖面からの蒸発実験観測
1，2：ロビンソン風速計，3，7：アスマン通風乾湿計，4：サーミスター温度計，5：湖面蒸発計，6：蒸発計，8：メーター，9：百葉箱（自記，温度及び湿度計）